

# 尚絅学院大学

(宮城県名取市)



2019年度

## ボランティアチームTASKI 活動報告



活動報告  
掲載中！

大学HP

<http://www.shokei.jp/campuslife/volunteer/taski/>

Twitter

[https://twitter.com/TASKI\\_SHOKEI](https://twitter.com/TASKI_SHOKEI)

Facebook

<https://www.facebook.com/shokei.volunteer.station/>

# ボランティアチームTASKI(たすき)とは？

T → 共に  
A → 歩く  
S → 尚  
K → 綱  
I → 愛

尚綱学院大学の被災地での支援活動は、2011年3月11日の東日本大震災の直後、地元名取市に居住していた学生たちが中心となって、自ら被災地へ赴き、「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして活動するところから始まりました。

その後、名取市内の仮設住宅での支援、さらには災害復興公営住宅での支援と被災された住民さんに寄り添いながら活動を続けています。

「つなげる」「つづける」「つたえる」の3つの“つ”を大切に活動し、住民の皆さんへの寄り添いを続けています。

つなげる  
人から人へ



つたえる

活動紹介  
SNSアカウントの開設

つづける

一人一人の寄り添い継続  
途切れない支援活動

## 大学間連携 春の閑上バスツアー

5/11(土)に「大学間連携春の閑上バスツアー」が行われました。このバスツアーは毎年実施しており、尚絅学院大、東北大、福島大の学生・教職員が約70名参加し、震災から8年2ヶ月の閑上を自分たちの目で見て、考える機会となりました。



TASKIの学生による事前学習会も行われました

閑上に向かうバス車内では、TASKIの学生スタッフによる震災後の閑上について説明がありました。閑上では、日和山にて語り部さんから津波到達時の状況や震災伝承の大切さについてお話を伺いました。



お昼は関上港朝市内の『メイプル館』と、最近出来たばかりの商業施設『かわまちてらす関上』の二手に分かれて食事をとり、関上を初めて訪問した学生も新しいまちの雰囲気を感じることが出来たようです。

午後は関上中央集会所に住民さんをお招きし、お茶会で交流をしました。たくさんの住民さんに集まっていただき、集会所内は大人数となりましたが、その分親しくお話しする機会となりました。



お茶会では5月26日に行われる「関上まちびらきイベント」に向けた準備を一緒に行いながら、住民さんから「関上話」をお聞きしました。また、住民さんの案内でまち歩きに行ったメンバーもいました。



お茶会後は、みんなで今回のバスツアーを通して思ったことや感じたことを共有するまとめの時間をとり、一人ひとりの学びを知ることが出来ました。



閑上は毎日のようにその景色を変えています。震災直後の面影はもうほとんど残っていません。特に、日和山から見る閑上のまちの景色は、まちびらきの為の工事で急激に変わっており閑上にお住まいの方ですら驚くそうです。その中で私たち学生ができることは、住民さんに寄り添いながら、一緒に笑顔になれるような活動をするのではないかな？と考える機会となりました。



ボランティアチーム TASKI 学生スタッフ健康栄養学科 3年 逸見彩絵

## 夏のボランティア活動報告① 兵庫県の大学生との合同ボランティア活動・学習会（1）

8月24日(土)～26日(月)の3日間にわたり、大学コンソーシアムひょうご神戸、尚絅学院大学のボランティアチーム TASKI、東北大学の学生で合同ボランティア活動と学習会を行いました。今回は1日目と2日目の様子をお伝えします。

8月24日

### 【岩沼市玉浦西地区&名取市閑上地区の現地踏査】

岩沼市玉浦西地区では、本学阿留多伎教授より、震災の津波により甚大な被害を受けた岩沼市の沿岸6地区の防災集団移転について、説明していただきました。岩沼市の現地踏査は TASKI の学生にとっても初めてでしたが、これまで訪問していた閑上とは異なる区画整備の様子や、地区ごとに違う公園づくりの工夫などを知ることができました。

閑上に向かうバス車内では TASKI の学生が被災地についてガイドし、さらに日和山、震災メモリアル公園、閑上中央集会所では講師の長沼さんから、震災当時の様子や新しいまちづくりの様子についてお話をしていただきました。

### 【長沼さんからの講話】

午後はイオンモール名取の地域連携交流プラザに移動し、長沼さんより新しい閑上のまちづくりの様子について講話をしていただきました。また、震災当初からボランティア活動を行い TASKI の立ち上げに関わった卒業生から当時の活動内容なども聞くことが出来ました。



## 8月25日【関上地区で住民さんと交流会】

関上中央集会所にて、神戸の学生と共に企画した「みんなの関上交流会」を行いました。新しいまちづくりがスタートした関上では、春に町内会が結成されたばかりです。そのため新たに移り住んだ住民さんなどにも声をかけながら、住民さん同士の交流や地域づくりが進められています。

学生も住民さんと一緒に交流を楽しみながら、関上の昔話をお聞きたり、神戸の学生が地元の話をするなど大変盛り上がりました。子どももたくさん来ており、徐々に若い世代が関上に増えてきていることを実感しました。

その日の振り返り会では、「地域のつながりが分かった」「震災当時の話を具体的に聞くことが出来た」といった感想が共有されました。



## 夏のボランティア活動報告②

### 兵庫県の大学生との合同ボランティア活動・学習会（2）

8月24日(土)～26日(月)の3日間にわたり、大学コンソーシアムひょうご神戸、尚絅学院大学のボランティアチームTASKI、東北大学の学生で合同ボランティア活動と学習会を行いました。前回に引き続き、プログラムの3日目と学生の感想をお伝えします。

#### 8月26日【尚絅学院大学での合同学習会】

最終日は、尚絅学院大学にて、ひょうごボランタリー前所長鬼本英太郎さんによる阪神淡路大震災に関する講話と、阿留多伎教授による岩沼市玉浦地区の復興に関する講話をいただき、貴重な学びの機会となりました。

休憩時間を利用して、防災食を作り試食する機会も設けました。お湯だけで作ることができる点や、様々な味があり食べやすいものでした。次にいつ起こるかわからない災害に備えて、防災・備蓄について考える時間となりました。



また午後は、学生企画によるワークショップを実施しました。3日間の活動や学習会を経てそれぞれが感じたことを共有し、「復興ってなんだろう」「学生として私たちにできること」というテーマで意見交換を行いました。神戸の学生の中には、初めて宮城に来たという学生もあり、それぞれの復興やボランティアに対する様々な考えを共有することが出来ました。



### 【3日間参加した学生の感想】

#### (大学コンソーシアムひょうご神戸)

- 住民交流会が印象に残っている。震災のことなどを、住民さんの口から聞くことが出来て本当に貴重な経験となった。これをしっかり伝えていきたい。
- 住民さんとの交流で子どもとずっと遊んでいましたが、信頼されることによって子どもが抱えている震災の体験について教えてもらうことができ、親がしっかりと震災時に生まれていない子どもにも伝えていることを知って、伝承することの大切さ、受け入れて向きにすすむことの重要さがわかりました。
- もう一度閉上に行きボランティアがしたい。そのためにも、地元でも積極的にボランティアに参加し、経験や知識を深めたい。
- 本当に参加してよかったと思いました。なぜなら多くの人の考えや、感想をきいて新たな考えを自分にも取り入れる事ができたし、今まで知らなかった現状を知ることで考え方は1つではないし、自分たちがやろうと思えば何でもできそうだと感じる事ができたからです。

#### (ボランティアチーム TASKI)

- 県内または県外のボランティア団体との交流ミーティングなどに参加して、どんな活動を行なっているのかや、一緒にできる活動はないか話してみたい。
- 阪神淡路大震災がどのようにして起こったのかを学びたいです。
- 正しい情報を知ることが大事だと感じました。震災についての情報を風化させたくないと思いました。ボランティアの本当の意義についてはしっかりと頭の片隅に置いて常に忘れずに活動したいと思いました。

この3日間は、宮城の学生にとっても、神戸の学生にとっても非常に学びのある合同活動だったのではないかと思います。



ボランティアチーム TASKI 学生スタッフ 健康栄養学科 3年 逸見彩絵

## 夏のボランティア活動報告③ 千葉県・福岡県の大学生との合同ボランティア学習会

9月9日(月)、敬愛大学（千葉県）と西南学院大学（福岡県）、尚絅学院大学の学生で、大学間連携合同学習会を行いました。

### 【各大学活動発表、講話】

活動発表では、尚絅学院大学ボランティアチーム TASKI の活動紹介、敬愛大学・西南学院大学は今回の学習会前日までの東北ツアーの内容と感想について、発表しました。



活動発表のあとは、閑上まちびらきに関する講話（尚絅学院大学 職員）と、九州の地震や豪雨災害に関する講話（西南学院大学 職員）を聞きました。

閑上まちびらきに関する講話では、私たち TASKI の学生も知らなかった、まちびらき開催における産学官民の連携や、住民さんのコミュニティ形成のためにやってきたこと・これからできることなどを聞きました。

九州の地震や豪雨災害に関する講話では、西南学院大学のボランティアステーションで行ってきた活動内容や苦労、今の地域の課題、支援団体の情報共有の大切さなどをお話しいただき、東日本大震災から 8 年経った今の閑上にもあるような地域住民のコミュニティ形成の問題が、災害の形は違えど九州にもあるということ学びました。



### 【学生意見交流会】

「支援ってなんだろう？」というテーマで、グループに分かれてワークショップを行いました。出身や大学の違う学生が考える、それぞれの支援の在り方や考え方を共有する機会となりました。



### 【恒例のゆるキャラ交換会】

3大学で、それぞれの地域スポーツのマスコットのぬいぐるみを交換し合いました。この交換会は毎年恒例になっています！偶然にも、みんな野球チームのマスコットキャラクターでした。



参加した学生の感想を一部ご紹介します。

- 支援についてのディスカッションが印象に残っている。これまで経験してきたことや、他大学の人と意見交換ができてより理解が深まった。
- 被災地で何が起きたのかということや今の状況を、メディアを通して知ったつもりでいたが、実際に行って本当の今の状況を知ることができた。今回のことを知ることで終わりにしてしまうのではなく、自分の身の回りのことに置き換えて考え、今できることを行動に起こすことが大切だと学んだ。
- もう少し深く掘り下げてみなさんの考えを聞いてみたいと思うことが多くあった。私も様々な活動をして、もっと学びを得たいと思った。

今回の学習会を通して、他県の災害やボランティアの様子を学ぶことができ、充実した学習会となりました。



ボランティアチーム TASKI 学生スタッフ 健康栄養学科 3年 逸見彩絵

## 「1.17のつどい」(兵庫県神戸市)報告

### 東日本大震災被災者招へい事業 2020

#### ～淡路島の断層、阪神・淡路大震災 1.17のつどい～

1月16日(木)～17日(金)の2日間、ボランティアチームTASKIの学生3名が兵庫県神戸市を訪れました。これは、ひょうごボランティアプラザがひょうご・東日本大震災被災地「絆」ボランティア活動支援の一つとして行なっている「東日本大震災被災者招へい事業」です。今回は私たち学生の他、名取市閉上に住む住民さんや、名取市の支援団体の職員の方々、閉上小中学校の生徒さんも一緒に招かれ、震災の犠牲者を悼むとともに、震災体験を共有し復興や今後の防災について考えるという貴重な経験をさせていただきました。

1日目は、瀬戸内海にある兵庫県淡路島を訪れ、北淡震災記念公園に行きました。ここでは、阪神・淡路大震災が起きたことによって地表に現れた野島断層を見る事が出来ます。

野島断層保存館では、当時旧北淡町役場に勤めていた語り部さんから、震災直後の混乱したまちの様子や、役場と住民との繋がり的重要性についてお聞きしたあと、実際の断層を見学しました。

断層はそのまま屋内保存されており、地震によって破壊された道路など様々な地形の変化を見る事が出来ました。約40秒という揺れの中、地面が割れ、動き、人が暮らす場所が一瞬にして壊れる様子が分かり、当時の地震を生々しく体感することができる保存館でした。





また、淡路島は、観光業や水産業、農産業が盛んな島で、特に「淡路島玉ねぎ」が有名です！サービスエリアの玉ねぎラーメンはすごく美味しかったです。



2日目は、早朝より三宮東遊園地で行われた「阪神・淡路大震災 1.17 のつどい」に参加しました。今年の竹灯籠の文字は『きざむ 1.17』。震災から 25 年、記憶や祈り、想いを刻むという意味で『きざむ』という言葉が使われたそうです。5 時 46 分、あの時間はその場にいた方々全員の気持ちが一つになっていました。

1.17 のつどいに参加するのは初めての学生もあり、それぞれ心に想うことができました。



竹灯籠に火をともし学生

午後からは、HAT 神戸で行われた「ひょうご神戸安全の日 1.17 のつどいー阪神・淡路大震災 25 年追悼式典ー」に参加し、その後は神戸・心絆という団体のもと、「25 こうべ 1.17 絆 9 とうほく 3.11」と描かれた竹灯籠を灯し、神戸と東北の復興を祈りました。



二日間にわたり、貴重な経験をさせていただきました。阪神・淡路大震災は 25 年、東日本大震災は 9 年、それぞれ一年一年を刻むごと、当時被災された方々の気持ちは深まっています。私たちも名取市閉上で活動させていただいている学生として、被災した場所の変化や住民さんの想いを再認識する機会となりました。今回の招へいでの学びを学内外で繋げていきたいと思えます。

## 【感想～東日本大震災被災者招へい事業 2020 に参加して～】

1.17 の追悼式では、震災で亡くなった家族について涙ながらに語っていた方が印象的でした。阪神・淡路大震災があったことを、誰かを失った悲しみや前に進もうとする姿を忘れてはいけなかったと感じました。また、後世に伝えていくことが私達の役割だと思いました。

(総合人間科学部環境構想学科 4 年 N.O)

私は初めての参加でした。言葉にするのは難しいですが、私は、自分が経験したこともない阪神・淡路大震災が起こったあの日を少しだけ感じる事ができたような気がします。あの気持ちを忘れてはいけなかったと思いました。

(総合人間科学部健康栄養学科 3 年 S.H)

竹灯籠で遺族の方がスピーチをしており、それを聞き、前を向いて進んでいることに感銘を受けました。式典では、宮城の人達を招いてくれたことで、兵庫と宮城の強い繋がりを感ずりました。

(健康栄養学群健康栄養学類 1 年 Y.K)

ボランティアチーム TASKI 学生スタッフ 健康栄養学科 3 年 逸見彩絵

## ボランティアチーム TASKI 震災からの9年の活動をまとめた冊子が完成！！ ～東日本大震災からのあゆみを未来につなげる～

東日本大震災後に、学生有志が立ち上げた「ボランティアチーム TASKI」の、震災後からこれまでの活動をまとめた冊子が遂に完成しました！

2011年3月11日の東日本大震災から、今年の3月11日で9年が経ちます。震災直後、当時の学生の「何かなくちゃいけない！」という想いで始まったボランティア活動は、大学のある地元名取市の災害ボランティアセンターから、仮設住宅へ、そして復興公営住宅や集会所へと、住民さんの住環境の変化に合わせて活動内容も変わってきました。

「被災地」を間近で見てきた先輩方、  
「きれいになっていく閑上」を見てきた今の学生、  
「整備された閑上」になってから初めて訪問する後輩たち…。

それぞれ9年という時間の中、見てきた風景は違いますが、変わらずあるのはそこに住む住民さんに“寄り添う”という気持ちです。  
復興とは何か、大学生として何が出来るのか、TASKIの学生がどのような想いで活動を続け、繋いできたのか、ぜひ手に取って感じていただきたいです。

※この冊子は「住友商事 東日本再生フォローアップ・プログラム 2018」の助成を受けて実施しております。

ボランティアチーム TASKI 学生スタッフ 健康栄養学科 3年 逸見彩絵



大学間連携  
**閑上バスツアー一合同学習会**  
 ゆりあげ  
**宮城県名取市閑上**  
 ～あの日の時から振り返り、これからの考える～

日時：2019年11月17日(日) 9:00～17:00 (雨天決行)  
 参加校：尚絅学院大学、東北大学

大学名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_

名前： \_\_\_\_\_

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

被災地でのボランティアや学習活動の前に・・・

**大切な心がまえ**

相手の立場になって活動しましょう	相手との関係を作る上で、最も大切なことです。どのように接すればいいかを、活動先のスタッフなどの経験者から聞いておきましょう。また、活動の旨や活動の考え方に合わせて服装や準備をしましょう。
簡単な挨拶を控えましょう	「ボランティアとして活動」という気持ちよりも、ボランティアをすることを通して、こちらが学ばせてもらっている、という態度で、対等な関係を築きましょう。
物事をやり、責任を持った行動をしましょう	やりきれない理由で放棄、参加する場合は、必ずその理由を必ず活動先と連絡しましょう。参加前は、スタッフの要を聞き取り、やってもらって仕事を準備しだしてあります。
相手のコミュニケーションをとりましょう	スタッフのからの指示やルールを守り、円滑動作しましょう。 活動中に現場に入った際の「おはようございます」「ごんごんは」の挨拶は必ずおろさん。活動中やその後に現場になった際の「あひがとごさいました」の挨拶、また、「お別れします」「おつかれ様でした」などの挨拶は、自分からすすんで言いましょう。
無理をしないようにしましょう	体調を崩している場合は、無理は禁物です。また、無理なスケジュールで活動を行うことは、活動の継続を困難にします。試験期間である、用事があがるなどの場合は、無理なく休めるように活動前に伝えておきましょう。
積極的に楽しみましょう	活動は待つっていても始まりません。「今何をやればいいのか」自分で考えることを楽しみ、自分で考えて行動することを心がけましょう。小さなことでも役立つことたくさんあります。
相手のプライバシーを守りましょう	活動現場で知り合った他人に関すること(プライベート)を披露してはいけません。 ※住民さんや職員の方、地域の方など、お世間になる方への挨拶も忘れずにしましょう。

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

**さあ、出発しましょう！**

バスに乗りながら感じてみよう！

もともと、名取駅から閑上に向かう道中は平地でしたが、震災後かさ上げ工事が進んでいます。現在は、かさ上げ道路から昔の平地部分が見えるように、バスに乗りながら体感してみてください！

震災当時、途中通る「東部道路」まで津波が押し寄せました。東部道路から日和山までどのくらい距離があるか感じてみましょう！

名取駅から閑上に向かうまでだんだんと建物が減ってきます。そちらも注目してみてください！

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

**現在の閑上地域**

道が新しくできて、まだ表示されていない箇所も多々あります。バスの車内から確認しながら行きましょう！

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

ゲーグルマップ(2019.5/8現在)

閑上の震災前・震災後

(2007年5月) (2011年4月)

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

東部道路まで来た津波

2012年8月

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

旧閑上小学校、中学校(どちらも震災後)

旧閑上小学校

旧閑上中学校

尚絅学院復旧支援ブログコロポレス (2015/10/23)記事より  
「小学校に感謝するイベント」がありがら、閑上小学校(2015/10/21)  
<http://koloropolesa.blogspot.com/2015/10/142.html>

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

元閑上中学校にあったモニュメント

現在は、閑上小中学校に移転しています。

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

👉 当時閑上にあった五差路は...



👉 現在、五差路にあった歩道橋の一部が震災遺構として残されています。

閑上小学校前歩道橋

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

👉 津波の被害を受けた日和山  
震災当時



SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

👉 日和山



2018年8月 コソウシーアムひろ〜こ神戸と00言同ボラ

2018年5月

震災後は、津波で流された閑上の松の木を使った鳥居が建てられましたが、昨年、新しく赤い鳥居が設置されました。

現在は日和山の周囲も整備され、住民さんが毎月石を並べ替えて作っていたメッセージもなくなりしました。

バスツアーで日和山に登って、講師の方より説明をしていただく予定です。  
震災から8年目の日和山の様子をご自身の目で見てみてください！！

閑上 震災を伝える会 (2015/12/7) 記事より  
<http://yurage1.blog.fc2.com/blog-date-201512.html>

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

👉 4年前まではまだ家の基礎が残っていた



4年前

1年前

2015年5月

2018年5月

日和山の上から撮影

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

つい最近は...



2019年5月7日  
日和山の上から撮影

名取市の復興整備計画のもと、新しい「まちづくり」が行われています。  
日和山の上から見下ろした、『芽生えの塔』の奥にあった、かまぼこ工場跡も区画整理により、2018年11月に解体されました。



2016年 日和山の上から撮影

閑上に住んでいる住民さんですら、ここ最近の急激なまちの変化には驚くそうです！！

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

## 仮設住宅・復興公営住宅って何？

避難所

仮設住宅

自立再建・移転

復興(災害)公営集合住宅

あくまでも避難所であり、家を失った方が一時的に長居することはできない。暮らす場所。

市などの地方公共団体が、国の補助を受けて整備した住宅(家賃がかかる)

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

## 閑上中央集会所

### 閑上中央集会所開誌 (2018/9/29)






### 閑上中央町内会 お花見 (2019/4/21)




集会所の周りは、自宅再建や、復興公営住宅(戸建)などの家がたくさん増えました。元々閑上にいた人も、新しく閑上に来た人も、イベントや閑上中央町内会の集まりなどを行うことでコミュニティづくりを進めています。

SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

## 閑上中央集会所

### 閑上まちびらき (2019/5/26)






SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY 尚絅学院大学

# 神戸訪問プログラム報告会

# 神戸プログラム1日目

健康栄養学科3年 伊藤舞衣  
健康栄養学科3年 下山陽子

## 1日目の概要

- ▶ 神戸の岩屋地区へ行き、神戸の大学生とボランティア活動参加
  - 1. 住民の方々とのお茶会『お茶屋いわや』
  - 2. 戸別訪問活動
  - 3. HAT地区の文化祭見学
- 3チームに分かれて活動を行った。

## 神戸大学灘地域活動センター (N.A.C)

- ▶ 設立；1997年4月
- ▶ 神戸大学の学生が主体となって活動
- ▶ 県営岩屋に北町住宅、HAT神戸灘の浜の2カ所にてお茶会（お茶屋いわや・神大喫茶）、戸別訪問 などの活動



## HAT神戸灘の浜

- ▶ 阪神淡路大震災の後に建てられた復興住宅
- ▶ 戸数約1900戸
- ▶ スーパーマーケットや喫茶店などが併設されている
- ▶ 神大喫茶；約50人参加



## 県営岩屋北町住宅

- ▶ 戸数約70戸
- ▶ お茶屋いっわや；約20人参加
- ▶ 岩屋北町住宅以外に住んでいる方もお茶会に参加している。



## 住民の方々とのお茶会

- ▶ 震災当時の体験談やそこから得た教訓を教えただいた。
- ▶ 世間話なども。
- ▶ 民謡を歌ったり、軽い体操を行った。



## 住民の方々とのお茶会

- ▶ お茶会終了後にミーティング
  - ▶ 誰とどんな内容を話したか、来なかった住民さんの確認などを共有・記録



### 戸別訪問活動

- ▶ 毎週開催しているお茶会に以前参加した方やその家族の方々と、近日に参加していない方々のお宅へ行き、『元気にしているか』、『現在はどのようにしているのか』などを確認する。
- ▶ 毎週お茶会の前後に行っている。

### 戸別訪問活動

- ▶ その月のお茶会のお知らせなどを手渡しやポストに投函してお茶会に来てもらえるように紹介。
- ▶ なかなか時間が合わなくていけない方でも大学生との交流を楽しみにしている方々がいた。

### HAT地区の文化祭見学

- ▶ 毎年文化の日付近に開催
- ▶ 地域住民が企画・運営
- ▶ 子どもからお年寄りまで住民が制作した作品を展示
- ▶ カフェも運営しており、お茶・お菓子100円



### HAT地区の文化祭見学

- ▶ 地域住民が主催・運営するイベントが多い
- ▶ 住民さんが運営するカフェも



## 学び・感想

- ▶ 学生の手厚いサポート
- ▶ 宮城の復興住宅との違い、施設の充実
- ▶ 学生と地域住民の交流が活発

## 神戸プログラム2日目

- ▶ 人間心理学科3年 坂本 絵里奈
- ▶ 人間心理学科3年 上村 菜々子

～スケジュール～

9：30 人と防災未来センター  
(語り部のお話、シアター見学、展示見学)

12：30 昼食 (JICA関西 食堂)

14：30 移動

15：00 震災遺構フィールドワーク

- ・震災メモリアルパーク
- ・東遊園地
- ・神戸市役所展望ロビー等

18：00 終了

### ◎人と防災未来センター



- ・その他にやったこと  
震災体験 (L17シアター)  
津波避難体験  
こころのシアター

◎震災遺構フィールドワーク



↑阪神高速道路の橋脚



↑1.17希望の灯り



↑マリーナ像



メリケンパークの一部→



↑慰霊と復興のモニュメント

# 神戸訪問プログラム

荒川望 加賀佑香

## 3日目の主な流れ

- ふたば学舎(長田)訪問
- 街歩き
- 学生間意見交換 振り返りの会

## ふたば学舎

- 語り部さんからの講話



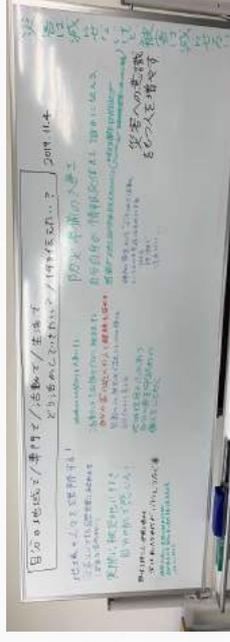
## 街歩き(長田のまち)

- 呉服屋の主人のお話
- 帽子屋の主人のお話
- お茶屋の主人のお話
- 復興のシンボル 鉄人28号観光



## 学生間意見交換 振り返りの会

- 神戸の学生との意見交換



# 学生作成ポスター集

尚綱学院大学や東北大学などの  
学生と一緒にお茶会  
しませんか？

尚綱学院大学  
尚綱学院高等学校  
桜の愛母高校 (福島)

高校・大学間連携  
閑上バスツアー合同学習会  
参加者募集！！

宮城県名取市閑上  
～あの日あの時からを振り返り、これからを考える～

日程：2019年7月21日(日) 8:50～16:30(予定) (雨天決行)  
集合場所：8:50 仙台駅東口観光送迎バス乗り場・9:30 名取駅東口  
参加費：無料

東日本大震災から8年。テレビなどのメディアでは震災関連情報の報道も少なくなりましたが、被災地では今でも日々状況が変化しています。今回の学習会では、尚綱学院大学のある名取市でも、特に被害が大きかった閑上(ゆりあけ)地域を見学し、高校生と大学生と一緒に被災地や「復興」について考えます。  
あの日から被災地はどう変化し、今ほどのような状況なのか。現地を訪ね自分の目で確かめてみませんか？

閑上バスツアー  
学習会の様子

尚綱学院大学  
ボランティアチームTASKIの活動紹介

グループでのワークショップ

尚綱学院大学 連携交流課  
Tel: 022-381-3339  
Mail: renkei@shokei.ac.jp

2019年5月11日(土) 交流会ちらし

尚綱学院大学  
尚綱学院高等学校  
桜の愛母高校 (福島)

高校・大学間連携  
閑上バスツアー合同学習会  
参加者募集！！

宮城県名取市閑上  
～あの日あの時からを振り返り、これからを考える～

日程：2019年7月21日(日) 8:50～16:30(予定) (雨天決行)  
集合場所：8:50 仙台駅東口観光送迎バス乗り場・9:30 名取駅東口  
参加費：無料

東日本大震災から8年。テレビなどのメディアでは震災関連情報の報道も少なくなりましたが、被災地では今でも日々状況が変化しています。今回の学習会では、尚綱学院大学のある名取市でも、特に被害が大きかった閑上(ゆりあけ)地域を見学し、高校生と大学生と一緒に被災地や「復興」について考えます。  
あの日から被災地はどう変化し、今ほどのような状況なのか。現地を訪ね自分の目で確かめてみませんか？

閑上バスツアー  
学習会の様子

尚綱学院大学  
ボランティアチームTASKIの活動紹介

グループでのワークショップ

尚綱学院大学 連携交流課  
Tel: 022-381-3339  
Mail: renkei@shokei.ac.jp

2019年8月10日(土) 夏っこ勉強会(子どもイベント)

尚綱学院大学  
尚綱学院高等学校  
桜の愛母高校 (福島)

高校・大学間連携  
閑上バスツアー合同学習会  
参加者募集！！

宮城県名取市閑上  
～あの日あの時からを振り返り、これからを考える～

日程：2019年7月21日(日) 8:50～16:30(予定) (雨天決行)  
集合場所：8:50 仙台駅東口観光送迎バス乗り場・9:30 名取駅東口  
参加費：無料

東日本大震災から8年。テレビなどのメディアでは震災関連情報の報道も少なくなりましたが、被災地では今でも日々状況が変化しています。今回の学習会では、尚綱学院大学のある名取市でも、特に被害が大きかった閑上(ゆりあけ)地域を見学し、高校生と大学生と一緒に被災地や「復興」について考えます。  
あの日から被災地はどう変化し、今ほどのような状況なのか。現地を訪ね自分の目で確かめてみませんか？

閑上バスツアー  
学習会の様子

尚綱学院大学  
ボランティアチームTASKIの活動紹介

グループでのワークショップ

尚綱学院大学 連携交流課  
Tel: 022-381-3339  
Mail: renkei@shokei.ac.jp

2019年7月21日(日) 高大連携バスツアー参加者募集ちらし  
(学生向け)

尚綱学院大学  
尚綱学院高等学校  
桜の愛母高校 (福島)

高校・大学間連携  
閑上バスツアー合同学習会  
参加者募集！！

宮城県名取市閑上  
～あの日あの時からを振り返り、これからを考える～

日程：2019年7月21日(日) 8:50～16:30(予定) (雨天決行)  
集合場所：8:50 仙台駅東口観光送迎バス乗り場・9:30 名取駅東口  
参加費：無料

東日本大震災から8年。テレビなどのメディアでは震災関連情報の報道も少なくなりましたが、被災地では今でも日々状況が変化しています。今回の学習会では、尚綱学院大学のある名取市でも、特に被害が大きかった閑上(ゆりあけ)地域を見学し、高校生と大学生と一緒に被災地や「復興」について考えます。  
あの日から被災地はどう変化し、今ほどのような状況なのか。現地を訪ね自分の目で確かめてみませんか？

閑上バスツアー  
学習会の様子

尚綱学院大学  
ボランティアチームTASKIの活動紹介

グループでのワークショップ

尚綱学院大学 連携交流課  
Tel: 022-381-3339  
Mail: renkei@shokei.ac.jp

2019年11月17日(日) 秋の交流会

# 1. 17 阪神・淡路大震災から25年…

## 阪神・淡路大震災とは…

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。地震による家屋の倒壊や火災などにより、**6,400人**を超える人命が失われるなど甚大な被害をもたらしました。

震災から25年経った現在でも、当時の経験と教訓とともに震災の記憶や想いが伝えられています。

### 震災直後



### 現在



### 現在



「鉄人28号の像」  
長田区の復興のシンボル



1.17のつどいには  
TASKIも毎年参加しています

## 神戸の経験から学ぶ『神戸訪問プログラム』

東日本大震災の被災地だけでなく、他の地域の震災についても学びを深めるために、2018年度より尚綱学院大学が実施しているプログラムです。

阪神・淡路大震災による被害が大きかった兵庫県神戸市を訪問し、フィールドワークや語り部の話を通じてについて知るとともに、その後の復興の歩みについて学び、地元名取市での活動や今後の災害・防災について深く考えます。

### 人と未来防災センター



### 震災遺構フィールドワーク



神戸の復興公営住宅の  
住民さんとの交流会

作成：尚綱学院大学ボランティアチームTASKI

# 「変わらない寄り添い」「新しいコミュニティ形成のお手伝い」 「協働・学びで次世代へつなぐ」

東日本大震災から8年半。宮城県名取市閑上(ゆりあげ)地区では、復興公営住宅や新しい家での暮らしが始まり2019年5月にはまちびらきイベントが行われるなど、嬉しいこともある反面、コミュニティづくりをどうするかという課題があります。一方で、“住民の皆さんの自らの復興を妨げない”支援のあり方とは何かを考え続けています。寄り添いの活動を継続しながら、新しい環境での住民さん同士の交流のお手伝いや、地元支援団体や他大学の皆さんと共に力を合わせ、学びながら、次につながる活動を行っています。

## 住民交流会(閑上)



交流・つながりの  
きっかけ作りを  
お手伝い



## 閑上まちびらきイベント



## 町内会夏祭り



## 継続した 「寄り添い」の活動

閑上の復興公営住宅や新しい集会所において、  
住民の皆さん自身による新しい町づくりが進んでいます。  
支援のあり方やボランティアの関わり方が変化する中で、  
まだまだたくさんの力やアイディアが求められることも・・・



## 協働と学び合いで つながる

## 学びを伝え 次につなげる

## 全国・県内の大学・高校との 合同ボランティア・学習会

今、私たち大学生にできることは何・・・？

次へと活かせることは何・・・？

活動報告はこちら！

尚綱学院大学HP  
TASKI Facebookページ  
Twitter アカウント

<http://www.shokei.jp/institution/extension/volunteer/>  
<https://www.facebook.com/shokei.volunteer.station/>  
[https://twitter.com/TASKI\\_SHOKEI](https://twitter.com/TASKI_SHOKEI)



2011	学生自ら被災地へ赴き「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして、閉所される8月まで支援活動を行う。その後、名取市内の仮設住宅へ。	とにかく できることを!
2012	チーム「TASKI」誕生 名取市内の仮設住宅集会所での体操や歌、学生主催のイベント活動(クリスマス・ひな祭り等)で交流。楽しい時間を提供。	なんとか 元気に なっほしい!
2013	仮設住宅支援の継続。おしるこ、書き初め、焼芋などのイベント活動だけではなく、畑作業、花壇づくりなど短時間でも回数を重ねた訪問で交流を続ける。	一人に ならないで!
2014	学生主催のイベント活動だけではなく、仮設自治会の祭支援など、より“支える”を意識した活動を実施。住民さん自らが活躍できるような場づくりへ。	笑顔に なっほしい!
2015	ひとつひとつの仮設を支援するだけでなく、仮設間交流の場を設定するなど、コミュニティ形成への支援活動を実施。	夢を か!
2016	仮設住宅から復興公営住宅へ住環境の変化に伴う被災地の課題に取り組む。“寄り添い”の大切さをチームで再確認し、長期的視野に立った支援へ。	新しい ふるさとへ...
2017	自治会や他の支援者と協働しながら、住民の皆さんの“自らの復興”を支援。一方で震災を伝えるための学び直しや、他大学のサポートも行っていく。	つなげる つたえる つづける
2018	これまでの“寄り添い”支援を継続しながら、被災地の新しい町づくりを応援する。活動経験を活かし、次世代や他地域につないでいく。	まだまだ 続...



## これまでの仮設住宅支援活動を通して 見えてきた状況から、わたしたちができることは何か。

2011年3月11日に発生した東日本大震災については、これまでニュースや新聞でたくさん報道されてきました。ご存知のとおり、宮城県名取市閑上(ゆりあげ)は被害の大きい場所のひとつでした。

また、震災前の写真を見るとたくさんの家並みや、穏やかな凧の海の様子など、環境、状況は違っても、皆さんが住んでいるところと何も変わらない、たくさんの人々の営みがそこにあったこともわかります。

名取市では5月に閑上まちびらきがおこなわれ、住民の皆さんの新しい住まいでの生活が始まりました。いうまでもなく復興公営住宅は、“仮設”つまり“仮の住まい”ではなく、これからずっと住み続ける“自分の家”ということです。

被災された住民の皆さんは、震災直後は体育館などでの避難生活をし、その後、長い方は6年以上もの間、仮設住宅で生活されてきました。住民の皆さんの中には、辛い時期を一緒に乗り切ろうと、お互いに声をかけあい、励まし合いながら暮らされている方もいました。尚綱学院大学の学生たちも、そのような交流の場をつくるための支援を続けてきました。

さて、ようやく始まった新しく、広く、きれいな自分の住まいである復興公営住宅などでの暮らし。しかし、名取市では一部を除き、集団移転(同じ町の住民さんをそのまま同じ地区に移転させること)ではなく、抽選によって住む場所が決定しました。お隣さんを決めることはできません。

**もう一度、ゼロからのコミュニティづくりが始まったのです。**

さらに、高齢者率も高く、実際に、復興公営住宅に移ったとたんに、家から出なくなってしまう方、体調を崩された方、亡くなってしまった方もいらっしゃいました。一方で住民の皆さんで町内会を結成し、新しいふるさとづくりを始めようと力を尽くしている方々もいらっしゃいます。

**このような状況が見えてきた中で、私たち大学生にできることは何かを考え、活動を続けています。**

活動報告はこちら！ 尚綱学院大学HP <http://www.shokei.jp/institution/extension/volunteer/>  
TASKI Facebookページ <https://www.facebook.com/shokei.volunteer.station/>  
Twitter アカウント [https://twitter.com/TASKI\\_SHOKEI](https://twitter.com/TASKI_SHOKEI)



尚綱学院大学  
ボランティアチーム

**TASKI**

発行：尚綱学院大学 ボランティアステーション  
ボランティアステーション Tel:022-381-3484  
大学事務室 連携交流課 Tel:022-381-3315